

# 奈良県産業振興総合センター 第二期中期研究開発方針

## ■趣旨

- ★センターの業務や研究分野の**選択と集中**により、限られた資源（ヒト・モノ・カネ）の効率的活用
- ★県内企業の将来に向けた発展を支えるための**先導的な研究開発**
- ★県内外の大学や研究機関との連携による**オープンイノベーションの推進**

## ■目的

時代を見据えた研究開発と奈良県ならではの独自テーマを設定し、県内企業への技術移転を通じて奈良県発のグローバルニッチトップ企業を育成していく。

**「奈良にキラリ☆と光るグローバルニッチトップ企業を！」**

## ■研究開発実施期間

令和3年4月1日～令和6年3月31日（3ヶ年）

## ■研究開発の2つの柱

### 「ミッション型」

センターが社会情勢や技術動向に基づいて、**自らが独自に先導的な研究領域を設定し**、研究開発シーズを確立・蓄積していく。成果については、近い将来県内企業への技術移転を行い、時代に即した新しいグローバルニッチトップ企業の創出を目指す。

#### （1）ITを活用したものづくりの自動化・省力化

ものづくりの現場でのデジタル化、AIを活用した画像認識、データ分析など

#### （2）地域資源を活用した健康維持・増進食品

健康に役立つ地域資源の開拓、清酒関連の素材開発、酵母を中心とする微生物の育種

### 「サポート型」

**県内企業の技術課題や研究ニーズに対応した研究領域を設定し**、共同研究などを通じて県内企業の実用化・製品化を加速的に進めていく。

#### （1）機能性材料

成膜技術の研究、有機系太陽電池の構成材料など新規機能性材料、電磁環境材料の開発、評価

#### （2）環境材料

バイオマス素材を複合化したプラスチックの物性等の弱点克服や成形性の向上に向けた研究

#### （3）加工技術

5軸加工機や3Dプリントなどを利用した高度加工や製品形状の精密計測に関する研究

#### （4）生活関連分野

地場産業である繊維、毛皮革関連の産業支援を中心に、機能性衣料・靴下などに関する研究開発

## ■研究開発推進体制

- 研究開発評価委員会および研究開発推進委員会を通じて、外部の有識者の意見を反映させ、PDCAサイクルを回しながら、技術シーズの確立および研究成果の普及につなげていく。

## ■オープンイノベーション型研究開発

- 外部の組織（県内企業、大学、県内外の研究機関等）との連携により、外部の知見や発想を取り入れ、幅広い視野に立って研究開発を進めていく。